

科目名（担当教員）	ゼミナールⅠ・Ⅱ・Ⅲ（森崎巧一）
テーマ	情報デザイン
履修条件	本ゼミナールでは、以下が求められます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・アートやデザイン、プログラミング等、ものづくりに対する情熱と惜しみない努力</li> <li>・コミュニケーション能力（相手の立場や気持ちを考えてから、自分の考えを伝える）</li> <li>・積極的に課題に取り組む力</li> <li>・物事を論理的に組み立てる力</li> <li>・礼儀、誠実さ、真面目さ、謙虚さ、意思疎通</li> </ul>
テキスト・参考文献	参考文献は下記（ゼミ運営計画）に記載。その他は必要に応じて適宜紹介。

#### ◇ゼミ研究内容

本ゼミでは、以下のテーマのどちらかを行います。主に1のテーマに取り組んで頂きます。2については必ずしも行うものではなく、学習の姿勢や本人の能力等を鑑みて指導する場合があります。

1. デザイン：調査・分析をもとにデザインを行います。デザインコンペや作品展にも積極的に取り組みます。  
例）グラフィック、WEB、DTM、メディアアートなど（技術習得は、本人のやる気と努力が不可欠です）
2. 感性工学：アートやデザイン等から受ける人の感性（印象）を調査・分析する、感性工学的研究を行います。  
例）美術作品から受ける印象の分析、印象評価を用いたニッチな商品の提案など

#### ◇ゼミ運営方法（ゼミ修了時に求める学生の理解・達成度）

ゼミ修了のためには、ゼミナールⅠ、ゼミナールⅡ、ゼミナールⅢで設定される各課題に対するレポート（ゼミナールⅢは卒業研究報告書（卒論））の提出が必須となります（各自で課題に取り組み、グループワークは基本的には不可です。しかし、課題の複雑さや量によりグループワークを認める場合があります）。課題はCEAS内に掲示しますので、期限までにCEASの森崎ゼミ指定の場所に提出して下さい。評価はレポート内容とゼミでの活動に対する姿勢等で行います。なお、レポートは、単なる作文・感想文だった場合、不可（E）の評価となります。

#### ◇ゼミ運営計画

	運営内容・ゼミナール特別活動	参考文献・課題など
ゼミナールⅠ (1回生後期)	(Ⅰ-A) デザインの世界に挑戦（簡単なデザインコンペに応募する） (Ⅰ-B) デザインに関するレポート作成 (Ⅰ-C) 資格・検定試験（ITパスポート・色彩検定等）	参考文献(Ⅰ-B): D.A. ノーマン「誰のためのデザイン？」新曜社認知科学選書  課題：上記書籍に関するレポート
ゼミナールⅡ (2回生前期)	(Ⅱ-A) デザイン制作1（自己満足の作品ではなく、制作対象についての情報を色々と調査し、それを分析し、分析結果に基づいて作品を制作する。制作内容により、特定の知識や技術を自発的に習得して制作に取り組む必要がある。作品展・コンペにも積極的に取り組む） 注意点：(Ⅰ-A)とは異なる新たな作品を制作すること。 (Ⅱ-B) 感性工学の基礎（感性工学の基礎を学び、その手法を用いてデザインの調査と分析を行う） 注意点：(Ⅱ-B)は、必ず指導するものではなく、学習の姿勢、本人の能力等を鑑みて指導する場合があります。	参考文献：木下是雄「レポートの組み立て方」筑摩書房  課題：(Ⅱ-A) デザインコンペ応募のレポート、(Ⅱ-B) 感性工学に関するレポート。
ゼミナールⅢ (2回生後期)	(Ⅲ-A) デザイン制作2（(Ⅱ-A)と同様に調査・分析に基づいて作品を制作する。制作内容により、特定の知識や技術を自発的に習得して制作に取り組む必要がある。作品展・コンペにも積極的に取り組む） 注意点：(Ⅰ-A) (Ⅱ-A)とは異なる新たな作品を制作すること。 (Ⅲ-B) 感性工学の実践 注意点：(Ⅱ-B)に取り組んだ者は、各自で決めたテーマで新たな実験を行う。	参考文献：木下是雄「理科系の作文技術」中央公論新社  課題：卒業研究報告書の作成（ゼミナールⅠ・Ⅱ・Ⅲで実行した内容を卒業研究報告書としてまとめ、それを提出する。 ※優秀な者は指名するので、指名された者は必ず卒業研究発表を行うこと。

#### ◇その他コメント（自己紹介とゼミ生への要望など）

情報デザイン研究は、調査や分析、考察が極めて重要であり、単なる独りよがりの物作りや主観的な作文とは全く異なります。特に、人や社会に受け入れてもらうための具体的な根拠を説明できることが求められます。さらに、プレゼンテーション・作品展などの発表の場で、積極的なアピールが要求されます。